

第48回 (H23年度第6回) MT委員会 議事録

日時: 2011年10月21日 13:30-14:30

場所: RIBF棟 2F 小会議室

出席: 酒井^a (委員長)、阿部^a、福西^a、羽場^{a,†}、Henning^{a,†}、上垣外^a、加瀬^a、久保^a、久保野^b、本林^{a,†}、櫻井^a、
下浦^b、須田^{c,†}、上野^a、上叢^a、若杉^a

欠席: 阿部^a、延興^{a,†}、森田^a、上坂^a、吉田^{a,†}

^aRNC / ^bCNS / ^cRIBF-UEC / [†]Observer

(順不同・敬称略。以下同様)

【報告】

1. オブザーバ委員の変更 (酒井)

須田東北大教授が新RIBF-UEC議長に選任されたことを受け、寺西前UEC議長に替わり、須田新議長が今回よりオブザーバ委員として参加することとなった。

2. RIBF加速器運転

- 加速器関係トラブル(上垣外)

10/2 に SRCで 200Lの水漏れ事故が発生した。修理に8日間を要したが、その後SRCは問題なく稼働している。1月に冷却水系配管の本格改善を行う。また、10/14にAVFの電源系トラブルが発生した。RILAC2とAVFが同じ系統に接続されていることによるブレーカーの問題と考えられる。今後両者の電源系統を別けることで対応する。このトラブルでAVFのMT開始が一日遅れた。

- ²³⁸Uビーム供給(福西)

RILAC2に新たに導入されたイオン源の動作が良好で、2008年度に実施した前回のビーム供給時と比べ、 $I = 22 \text{ e}\mu\text{A}$ と10倍の強度でビームが引き出されている。RILAC2 も安定して動作している。しかし実験者へのビーム供給は4日遅れとなった。この理由は i) 上記 SRC 漏水、ii) AVF/RILAC2で発生した電源系統のトラブル、iii) 第一段の新チャージストリッパの調整、及び iv) サイクロトロン多段加速における²³⁸U ビーム調整時特有の技術的困難さが挙げられる。現在は第一段ストリッパを通過したビームの品質があまり高くないために fRC 及び IRC でのビーム通過効率が悪いという問題を抱えており、引き続き調整を行っている。ビーム強度は $I \leq 1 \text{ p}\mu\text{A}$ 。

3. MS 進捗状況(久保)

4日遅れの10/19 13:00 に BigRIPS へビームが渡された。最高ビーム強度は $\leq 1 \text{ p}\mu\text{A}$ (今回のシリーズでは目標はピーク $5 \text{ p}\mu\text{A}$ 、平均 $3 \text{ p}\mu\text{A}$)。二次ビーム調整は10/21 3:00AM から始めているが、PPAC の準備と調整に時間を要しており、10/21 昼の時点ではまだ BigRIPS 調整を行っている。

4. PAC 進捗状況 (上野)

- NP-PAC: 12/9-10 開催の10th NP-PAC 会合に向け準備が進められている

- PAC審査における装置担当者及び検出器担当者

今回PACより、ZDS の装置担当者を久保室長から大津専任に変更。また今回より新たにDALI2(本林コーディネーター)、EURICA(西村前任)、GRAPE(井手口東大講師)の3名の検出器担当者を設け、技術審査を行うこととした。

- 他、下記2項目が10/19開催 CNS-RIKEN 担当者会議にて決定された

技術審査について: 今回件数が多くなることが予想されるため、通常事前に行われている施設側技術審査を PAC による事前書類審査と並行して行うこととした。報告書は技術審査終了後、速やかに資料として PAC 及び実験代表者へ送付する。

完了課題の追跡調査について: 従来 MT が完了し半年を経過した課題について調査を行っていたが、

今後は 完了ではなく実施した MT を調査対象とすることとした。

– 課題申請状況

10/21朝現在、総計 30 件の課題申請があった。うち、EURICA関連は17件であった。

- ML-PAC: 8th ML-PAC会合は 9/26 に PAC 答申及び申請者への結果通知が行われた。
- In-PAC: 10/1付けで吉田敦新産業連携TLが着任した。今後新TLを中心に3rd In-PACの開催が検討される。

5. EURICA 計画への次年度 MT 配分について(Henning)

副センター長を中心に、次年度のMT配分の方針が検討されている。SRC利用全期間を216日と仮定し(これは8ヶ月運転が実現されれば可能であるが)、EURICAシリーズへのMT配分の割合が40%であれば、一次・二次ビーム調整日数を含めて88日程度を配分できることになるとの説明があり、これを含めた全体のMT配分案も提示された。提案についてMT委員会委員からの意見聴取が行われた。本件は引き続き検討される。なお、EURICAはRNC に1.5年滞在する。

6. 今後 1.5 年の NP-PAC 採択可能日数について(Henning・酒井)

EURICA シリーズも含め、今後 1.5 年での S または A グレード課題の採択可能日数の検討が副センター長を中心に進められている。8ヶ月運転を仮定し、backlog を二年分に抑えられるよう考慮された採択日数案が提示された。提案について MT 委員会委員からの意見聴取が行われた。本件は引き続き検討される。

【議題】

1. 前回議事録承認 (酒井)

2. NP-PAC で審議・採択対象とすべき BigRIPS 調整日数(上野)

現在の暫定的なMT運用では、二次ビーム設定変更に伴うBigRIPS調整一回分を、施設側調整時間として、採択日数に付与している。この理由は i) これまで開催されたPAC会合では二次ビーム調整日数の取り扱いが統一的に取り扱われておらず、採択日数だけではBigRIPS調整に時間の大半を費やさねばならない課題があること、及び ii) MT消化日数に関するトラブルを避けるため、業務としてのBigRIPSの調整時間とユーザーのMTの消化日数とを出来る限り事前に切り分けておくことが望ましいこと、が挙げられる。また、実験課題の中には多く種類の二次ビーム設定変更を要する実験課題もあり、BigRIPS調整日数を全て施設側が付与するサービスタイムとし、測定時間のみが審査・採択されたとするとPACによる実行可能性の審査が不十分になる恐れもある。そこで、N 種類のBigRIPS調整を要する二次ビーム利用申請があった場合PACで審議及び採択すべき採択日数は

- 1) N 種類の調整日数+測定時間 全て
- 2) N-1 種類の調整日数+測定時間 (現在の暫定運用方針)
- 3) 測定時間のみ

のいずれとすべきか(または更により案があればそれについても)検討を進めることとした。なお、現在のPAC会合では、PACによる申請課題の書類審査に先立ち施設側技術審査を実施しており、要求された二次ビーム調整日数や測定時間が適切かどうか自体についてはチェックが行われている。本件はRIBF-UECにも検討を依頼し、意見聴取することとした。

3. 次回MT委員会の日程

- 次回は 11/18(金) 13:30- で調整
- 次々回は 12/16(金) 13:30- で調整

(以上)